

令和5年度 第7回「湊地区 白山市ミライ会議」概要

日 時：令和5年8月7日（月） 19：30～20：30

場 所：湊公民館

参加団体等：区長会、湊町桜と黒松を守る会、湊地区社会福祉協議会、湊町寿会、自主防災会、湊財産区管理会、防犯協会、子ども会、湊体協、食生活改善推進協議会、湊保育園保護者会、公民館長など

発言【1】

小舞子海水浴場の「かもめういんぐ」休憩所の鉄骨がさびているが、なかなか改修されない。復活できないのか。

【市】

「かもめういんぐ」の鉄骨は、サビがひどく危険な状態のため撤去を行う予定です。ここ数年はイベント用のテントを使って代用させてもらっています。現在は解体工事の実施設計を行い、撤去工事の準備を進めております。改修については、今後も検討していきたいと思っています。

発言【2】

湊町12区の横はすぐ能美市で、そこへ行く道が10区前から12区まで融雪装置がない。融雪装置は水に限らず空気熱や地下水熱を利用した方式がある。その方法なら地下水資源の枯渇に繋がらないので、消雪パイプのメンテナンスも不要である。新しい技術を検討し安全な地域づくりをしてもらいたい。

【市】

地下水保全の観点から様々なエネルギーを利用した無散水融雪施設が研究されていますが、電熱線や温水を利用したロードヒーティングは路面全体に融雪設備を設ける必要があり、設備費用や電気料などの維持管理費が高額となります。比較的雪の少ない美川地区において、費用対効果は少なく、また、短時間で大量に積もった場合には効果は期待できません。機械除雪での対応が一番効果的であると考えています。

発言【3】

市道の10区、12区の間、湊地区と隣の地区の間は、境目で除雪が切れていると思う。その境目の除雪の時に騒音が凄く、特に大型車が通ると、段差が出来

て、大きな音がする。何故一緒に除雪しないのか。予算がないとは言わないでほしい。

【市】

機械除雪は積雪量が 10cm を超え、引き続き降雪が予想される場合に出動するため、除雪が完了するまでは消雪区間と機械除雪区間の境界はこの場所に限らず段差ができやすくなります。順番に除雪を行っておりますので、ご理解とご協力をお願いしたいと思います。

発言【4】

- (1) 2年前の雪が降り道路が凍結するような時に、もし、健康センター横の消防小屋にある消防車が出動しなければいけなくなったとしても、自衛消防の人も小屋にも行けないし、小屋から消防車も出せない状況があった。最低でもコミュニティセンター前の右から、能美市の境目まで消雪装置が必要だと思う。
- (2) 湊から加賀海浜産業道路へのアクセスが非常に不便だと思う。今後の計画として湊からのアクセスが橋に向かってどういう道路になるか教えて欲しい。
- (3) 白山市独自の英語教育をプラスし、小さい子供からゲームをするような感覚で英語を勉強するような教育を検討してほしい。

【市】

- (1) 湊分団器具置場には消雪装置が整備されており、冬期間、分団員並びに美川支所総務課消防担当が降雪予報等を参考にバルブの開閉作業を行い、緊急時の出動に備えています。

比較的雪の少ない美川地区において、消雪装置については費用対効果や地下水保全の観点から、機械除雪での対応が一番効果的であると考えています。

- (2) 加賀海浜産業道路の開通に合わせて、能美市と川北町との境界付近に市道を接続する交差点を設置し、加賀海浜産業道路本線部においても石川県と協議し右折車線を設置しました。今後、県営手取公園や石川県水産加工センターなどの利用状況を考慮し道路規格を検討し、また区長会にも提示しながら計画を進めていきたいと思っています。
- (3) 外国語の教育については、白山市の小中学校では ALT や EI の外国語指導助手による授業を他の市町と比べて、かなり多く取り入れており、小学校から英語の活動をしております。その他、国際交流員を小中学校における総合学習（外国文化の理解）の講師として派遣しています。

ご意見を踏まえ、英語教育の更なる充実を検討していきたいと思っています。

発言【5】

子ども食堂の助成金について、今年は6万円に増えたが、4、5、6区の場合、子どもたちが100人近く来ても、一つの食堂への助成は人数に関係なく6万円である。子どもの参加人数に応じての助成金をいただきたい。

【市】

令和4年度までの補助金は、年間5回以上開催しないと補助の対象とはなりませんでしたが、令和5年度からは年間に1回の開催でも補助の対象としましたので、補助金を利用しやすくなっております。

また、この補助金の交付は6回以上受けられないことになっていましたが、回数制限を廃止し継続して補助金を受けられるようになりました。補助基準額については、平成28年度から令和4年度まで（R2年度除く）の実施団体全体の1回あたりの子どもの平均参加人数が23人であることから、500円×30人分で1回あたり15,000円としております。

発言【6】

ふるさと教育を学校教育だけでなく社会教育すべてに力を入れてほしい。一つ提案だが、28地区の公民館が連携した大きなふるさと教育（ジオ教育）を考えてはどうか。

【市】

市内各公民館では各地区の特色を生かした事業をこれまでも行っています。来年度のコミュニティセンター化を機に、その特徴をさらに出すことができるように地域力を高める事業の実施を目指しています。地域学習はジオパーク学習とも密接に繋がっており、各公民館が互いに参考にできる事業としていきます。その積み重ねが大きなふるさと学習になると考えております。

発言【7】

全国に有機米の学校給食の運動がかなり進んでいる。子ども達に安心安全なお米、食材の提供について市長の意見を聞きたい。

【市】

全てを無農薬にするのは困難ですが、可能な範囲で取り組んでいきたいと考えております。

学校給食で有機米のみを使用することは、多くの量を確保できないため現状では難しいですが、今年度は新たな取り組みとして、市内の小中学校で11月

29日から30日に特別栽培米の認証を受けた米を給食で提供しました。

こうした取り組みを拡大するには、生産者の協力、消費者への周知、地域一体となった理解の醸成が必要であり、今後も継続して実施したいと考えています。